

店舗運営、接客を学ぶ Café de Mikata

八月六日、美浜町こるばで食物科の三年生七名が事前予約制のカフェを開いた。メニューは「夏の花彩プレート」ハンバーグ、カレーピラフ、ナポリタン、フライドポテト、サラダ、デザートは爽やかなオレンジゼリーと、大人から子どもまで大満足の一皿に。こるばの他にも、七月三十日に敦賀市のmintでハンバーガーランチを、八月二十日には十村駅ほっとむらで夏野菜カレーを提供した。

カフェ運営は課題研究の一環として昨年度から取り組んでおり、三班(三か所)に分かれて実施した。調理師として働くことの責任とやりがいを知ると同時に、飲食店での実践的な体験ができた。



心を込めてランチを提供



映える「夏の花彩プレート」

松永先生は「メニューをどうまとめるか、誰にターゲットを買ってもらうか、誰にターゲットを買ってもらうか、誰にターゲットを買ってもらうか」と話していた。

松永先生は「メニューをどうまとめるか、誰にターゲットを買ってもらうか、誰にターゲットを買ってもらうか」と話していた。

松永先生は「メニューをどうまとめるか、誰にターゲットを買ってもらうか、誰にターゲットを買ってもらうか」と話していた。

松永先生は「メニューをどうまとめるか、誰にターゲットを買ってもらうか、誰にターゲットを買ってもらうか」と話していた。

大好評！食物科のお弁当

8月1、9、10日に、食物科三年生は嶺南東特別支援学校の先生方に弁当を販売した。各回約50食を配達。「すごくおいしい」「また食べたい」と大好評だった。



三年生の夏 進路実現に向けて

就職編

今年就職希望者は二十一名。求人数は七月末で約八五〇社と昨年より多い。様々な業種から求人があり、特に製造業の求人が多い。地元企業からの求人も増加している。就職活動の流れは、七月中に職場見学に行き、八月初旬に受験会



講師の方を交えての面接練習

就職担当の西村先生は「就職活動は厳しいが、強い気持ちを持って頑張ってください。採用されて終わりではなくそこから先も頑張れるかが大切」と話した。就活中のKさんは、後輩へのアドバイスを送りたい。

進学編

三年生にとって夏休みは進路実現のための非常に重要な期間である。そんな三年生の夏休みを進学と就職の視点から取材した。

進学希望者はこの夏休みが「受験の天王山」と言われるほど重要な時期だ。七月二十一日、二十三日、学習合宿が三年ぶりに三方青年の家で行われた。「学習習慣を身に付け、努力継続の精神力を養い、進路実現に自信をつけること」を目標に、合計一一二〇分の学習時間が設けられた。参加者は「一日十時間の勉強は楽しかった」「周りに頑張っている人が居ると自分も頑張れた」と良い経験になった様子。岩本先生は「休憩をとりながら集中力を保つ方法を各自で考えていた」と話した。



問題を解く先生と生徒

八月以降も毎月模試が続く。一月の共通テスト、その後の二次試験まで、体調に気を付け根気強く頑張ってください。

本格的に受験勉強を始めた時期

高3春~夏	69%
高2夏~冬	15%
高2春~夏	8%
始めてない	8%

ファッションデザイナー桂由美さん講義 自分の可能性を信じて生きていく



気さくに握手を交わす桂さん

七月十日、生活情報科の一年生が世界的ファッションデザイナー桂由美さんの講義を受けた。桂さんは六月からユミカツラミュージアムの協力を得て、プロの方々から結婚に関する授業を受けている。十一月には学びの集大成として模擬結婚式を行う。講義では過酷な戦争時代の生い立ちや、学生時代に演劇に熱中したこと、デザインのこと、留学のためパリに留学したことに触れた。ウェディングドレスをデザインする際は「どんな人が、どこで、どんな結婚式を挙げるのか、ドラマを思い浮かべている。演劇が役に立った」と話した。



完成した服を着て喜ぶ野崎さん

ファッションデザイナー桂由美さん講義
自分の可能性を信じて生きていく

ファッション甲子園出場 みずみずしい感性を表現

全国高等学校ファッションデザイナー選手権で三ノ野野崎美羽さんのデザイン画(作品名「春の歌声」)が選ばれた。一八一〇点の応募作品から審査の結果、三十五組が八月二十七日に青森県弘前市での最終審査会に臨んだ。野崎さんは「デザイン画をそのまま衣装にするのは大変だったが、先生や友達と一緒に頑張った。モチーフにしたチュールリップをたくさん散りばめて春を表現した」と話した。

【編集後記】 161号を読んでいただきありがとうございます。この新聞は3年生の力も借りながら制作しました。今日から始まる学校祭楽しんでいきましょう！